

令和5年度 九州パラスポーツ指導者協議会 『九州ブロック研修会 in 宮崎』
実 施 報 告 書

1. 目 的

公益財団法人日本パラスポーツ協会の公認パラスポーツ指導者が、その資質向上及び情報交換により緊密な連携を図ることによって、パラスポーツ・レクリエーションの振興・発展に貢献することを目的とする。

2. 主 催：九州ブロックパラスポーツ指導者協議会
公益財団法人 日本パラスポーツ協会

3. 主 管：宮崎県パラスポーツ指導者協議会

4. 後 援：宮崎県障がい者スポーツ協会

5. 日 時：令和6年2月10日（土） 13：00～17：30
2月11日（日） 9：30～12：00

6. 会 場：宮崎県福祉総合センター人材研修館（大・中研修室）
本館（セミナールームⅠ・Ⅱ・Ⅲ）

7. 研 修 内 容：別記報告と兼ねる。

8. 参 加 者：九州ブロック会員 91名
（宮崎県以外の会員：44名、宮崎県の会員：47名）

9. 報 告

（1）九州ブロック各専門部会活動報告

「情報部会」、「クラス分け部会」、「研修・研究部会」、「指導部会」、「トレーナー部会」の各専門部会長（専門部会長欠席のところは部会員が代行）による本年度の活動報告及び来年度の事業計画等が報告された。

（2）講演

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会常務・日本パラリンピック委員会委員長の河合純一氏に「パラスポーツの現状と課題」と題して講演をいただいた。

パラリンピックの目指すところは、「大会を通して、誰もが自分らしく生きられる社会を作ることにある」ことを指導者育成のためには、研修や大会情報を共有するネットワークの構築や活動できる機会の拡大を図ることの大切さを示唆いただいた。

参加者からは、目指していく具体的な取組状況が把握できるお話で大変有意義なものであったという声が多く聞かれた。

（3）実践報告

今回は、パラアスリート本人やパラスポーツ指導者からの報告ではなく、ボッチャ選手のランプオペレーターであり姉、水泳選手のコーチであり母親の2人に競技との出会いから競技を通して感じたことを報告していただいた。

① 「ペアで世界へ～世界大会に参加して思うこと～」：竹之内昭子氏

② 「パラ水泳に出会って共に過ごした日々～強化選手になるまで～」：山田花奈氏
2人の報告から、パラスポーツ選手の置かれている現状がわかるとともに練習環境の充実、指導者不足の解消、遠征費の補助等々、課題があることがわかった。
まさに競技者、パラスポーツ指導者目線ではない家族目線からの提言であった。





竹之内 昭子 氏



山田 花奈 氏

(4) 分科会

①「全国障害者スポーツ大会クラス分け：研修・演習」・・・参加者15名

高原由美子氏（九州ブロッククラス分け部会長：福岡県）が講師として研修を行った。高原氏がプレゼンテーションで資料・情報を示しながら具体的な説明を丁寧に行っていた。補足説明等も加わり大変分かりやすい内容であった。

研修の中では、参加者同士で日頃の活動内容や困っていることを共有し、事例を通して区分表の見方や区分判定の考え方を整理した。また、最後に今後の競技規則・解説の改正に関する動向も示していただいた。

②「全国障害者スポーツ大会とパラスポーツ指導員：講義」・・・参加者46名

前田 究 氏（九州ブロック副会長：鹿児島県）が講師として講義を行った。今回は「全国障害者スポーツ大会のおさらい」、「選手団スタッフの役割」、選手団の編成と大会エントリー」、「『特別全国障害者スポーツ大会 燃ゆる感動 かがしま大会』を振り返り」という内容で、パラスポーツ指導員の業務内容について講義をいただいた。

初級パラスポーツ指導員の参加の多かった分科会にあって、パラスポーツ指導者の役割について、とてもわかりやすい内容であった。

③「宮崎におけるトレーナーの役割と多職種連携について：講義」・・・参加者20名

水浦毅彦氏（SKY link代表：宮崎県 トレーナー部会所属）が講師として講義を行った。「パラトレーナーの活動内容」「パラスポーツトレーナー部会の活動」「パラトレーナーの実際」を取り上げて講義をしていただいた。宮崎県内にてトレーナー部会を立ち上げたことにより、それまで各自で活動していた医師、看護師、理学療法士など多職種が選手の情報を共有しやすくなり、パラスポーツ選手のフィジカルについても多方面からアプローチが可能となっていることの説明があった。講義の中で、トレーナーと多職種との「連携」の重要性について理解が深まった。



10. その他、所感

今回は、コロナ感染症5類への移行後初の研修会となり、多くの九州ブロックパラスポーツ指導者協議会の会員の皆様の参加が期待されたが、プロサッカー・プロ野球キャンプ時期と重なり、宮崎県の宿泊先確保ができずに断念された方も多かったようである。

また、開催時期の確定や講師選定が遅れたため、開催要項最終案をお示しできたのが年末であったこと等不手際により、会員の皆様に御迷惑をおかけしたが、約90名の方々が九州各県から参集して研修会を開催することができた。今回の研修会開催に至るまでに、実行委員会を立ち上げ、進捗状況の共通理解を図りながら、若手会員を前面に出した運営を試みた。その結果、各自が責任をもって対応し、サポートの必要なところには、気が付いた会員が回るといふ支え合いの姿を見ることができたことは大きな財産となった。

研修会後の会員の皆様の反省（アンケート等）から、実技の実施を望む声が多くあがったことを次期開催県の鹿児島県に引き継ぎたいと思う。

最後に「九州ブロック研修会 in 宮崎」開催に当たり、公益財団法人日本パラスポーツ協会をはじめ九州ブロックパラスポーツ指導者協議会会長、各部会会長、各県参加者の皆様の御指導御支援に感謝申し上げます。